

「審議会等の会議結果のお知らせ」  
スポーツ推進審議会の会議結果について

平成31年3月27日に開催しました審議会の概要は下記のとおりです。

記

- 1 開催日時 平成31年3月27日（水） 14時00分から16時30分
  - 2 開催場所 佐賀市役所大財別館4階 第3会議室
  - 3 出席した者の氏名  
林正博（会長）、坂元康成（副会長）、吉永美紀、伊東健児、山田力也、西村文子、田中夏美、嘉村英哲、原敏朗、渡邊由美子  
〈事務局〉  
古賀地域振興部長、稲富スポーツ振興課長、井口参事兼国体準備室副室長、馬郡スポーツ振興課副課長兼スポーツ係長、野田管理係長、吉谷スポーツコンベンション係長、堤スポーツ係主査、前田スポーツ係主任、吉田スポーツ係主事
  - 4 欠席した者の氏名  
〈委員〉 池田ひとみ、徳光清孝、大坪泰、久米ハル子、島内俊幸
  - 5 議題
    - ① 佐賀市スポーツ推進計画について（資料1）
    - ② （仮称）第2次佐賀市スポーツ推進計画について（資料2）
  - 6 会議の公開又は非公開の別 公開
  - 7 非公開の理由（会議を非公開とした場合に限る。）
  - 8 傍聴者数（会議を公開した場合に限る。） なし
  - 9 発言の内容
- 佐賀市スポーツ推進計画について  
平成30年度事業の年間総括について事務局より報告

【主な意見】

◎佐賀市及び各校区の体育協会について

- ・旧町の体育協会に行政の担当者がいなくなり、大きな大会等ができない状況。スポーツ人口を増やすためには何か工夫をした方がいい。その中で校区体協間のつながりも重要だと思う。
- ・佐賀市体育協会と、校区体協、競技団体、行政との交流会を持ちたいと考えている。校区体協は地域のまちづくり協議会や自治会協議会と連携をとっていただいて、スポーツの振興を図りたい。
- ・まちづくり協議会や自治会協議会の中にも、体育協会として入っていつているので、佐賀市体協と校区体協の認識を一緒にして活動していけたらと、そういう意味で、意見交換会などをやっていきたい。それには佐賀市（スポーツ振興課）にも入ってもらって、体育協会だけでなく佐賀市も一緒にみんなでやろうという機運を出さないと現在スポーツのお世話をしている人たちが厳しい状況。

### ◎総合型地域スポーツクラブについて

- ・総合型地域スポーツクラブについては、赤松の総合型は公民館を、かわそえスポーツクラブはスポーツパーク川副を使用している。また総合型だけでなくスポーツ全般に言えることだが、「人」「場所」をどう組み立てていくかが大切。総合型地域スポーツクラブ連絡会でも、意見交換をしていきたい。国も総合型地域スポーツクラブの数を増やす「量」から「質」の向上へ方向転換しており、その辺も次期計画に反映できればと思っている。
- ・総合型と少年団と単位のスポーツクラブと（部員の）取り合いをしているという、残念ながら間違った考えをしているところもある。総合型があって、その中にスポーツ少年団があるという構造だが、スポーツ少年団が保護者も含めて総合型を支えている。佐賀県で最初の総合型が久保泉であり、その時の反省を今でも悔やんでいるが、公民館、自治会との連携が構築できなかった。

### ◎指導者について

- ・体育協会としては、人的配置がなかなか難しい。また各校区の体育協会も、次が育ってない。理由は様々あると思うが、若い人たちは自分がするスポーツは自分で行くが、それから上の段階、指導する、指導者になってもらう、まとめをやってくれる人が今なかなか出てこないのが現状。
- ・組織力をどう上げていくのか。指導者、リーダーを作るのは難しいが、公民館なり自治会なり、コミュニティの場で育てる。その辺の役割分担、ルール作りが大切である。指導者を作るのに、5年かかるため、指導者を育成するプランニングが今一番必要ではないか。地域でリーダーが非常に育ち、魅力のある地域になることで、高校生が是非残ろうとか U ターンして佐賀に戻ろうとか、その辺をどうするのかをこの会議で決めていきたい。

## ■ 第2次佐賀市スポーツ推進計画について

調査集計結果及び第2次佐賀市スポーツ推進計画骨子案について説明

### 【主な意見】

#### ◎スポーツボランティアについて

- ・現在の計画にもスポーツボランティアの登録推進とあるが、桜マラソンやしゃくなげ湖ハーフマラソンにも多くのボランティアが参加されている。どのような登録の仕方をしているのか、またリピーターはいるのか。楽しかったという意見もあるがそれを次に活かす方法としてどう考えているのか。  
佐賀市では国スポと全障スポがあり、必ずボランティアの必要性は出てくる。次につなげるためにどうするかを教えてほしい。

#### (事務局)

桜マラソン、しゃくなげ湖ハーフマラソンについては、前年度ボランティアとして参加された方には再度案内を送付。桜マラソンは（フルマラソンになって）最初から協力していただいていた自治会の方は、高齢化も伴い減少傾向で、高校生は増加傾向にある。

しゃくなげ湖ハーフマラソンについては、地元のボランティアがメインで、中学生は富士や北山の生徒に協力してもらっている。

スポーツボランティアは若い時からの経験が大切。陸上部だけでなく一般公募の高校生も増えており翌年も案内を出すことで、ボランティアを身近なものとして感じてほしい。新規の開拓は委員の意見も聞きながら今後考えていきたい。

- ・ボランティアの流れができたらいと思う。また、障害者スポーツについては今から自分たちも一緒に啓発をしていかななくてはならない。

(事務局)

全障スポのボランティアについても、そこを見据えてスポーツ推進委員協議会でも取り組んでいる。その時に多くの参加があればと思っている。

#### ◎障害者スポーツについて

- ・障害者スポーツの推進のキーワード「障がい児・者対象の運動」「障害者スポーツ関連部局・団体との連携」とあるが、今後インクルーシブ的な、健常者と障がい者が一緒になってやるスポーツというものを指導しないとこの数値は上がらない。一年半前にドイツに行ってきた、日本は障がい者に対しての指導が相当遅れていると感じた。ドイツは健常者と障害者が何の抵抗もなく一緒にスポーツをしている。今学校現場も発達障害が増えている。発達障害の子をスポーツが楽しいという形で成長させたい。体協や少年スポーツの指導で、特に障害者についてはもっと目を向けなければいけないと最近つくづく感じている。

(事務局)

インクルーシブと言う発想については、例えばスポーツ推進委員協議会の中で「まなざしスポーツ・レクリエーション祭」において、障害者の方にも30数名に参加してもらい一緒に活動するような取り組みを行っている。人数は少ないながらも、そういう輪を広げていきたい。推進委員や他の参加者と一緒に卓球バレーなどを行った。

少しずつ、経験してもらいスポーツ推進委員協議会のメンバーが、地域の代表でもあるので、全国障害者スポーツ大会にも、その輪を広げていってもらいたいという思いで取組をしている。

#### ◎eスポーツについて

- ・今年佐賀県も選抜チームを作っているが、種々の委員会や県の有識者の集まりでも賛否は分かれている。むしろスポーツにあらざと言う意見の方が大勢を占めているが、この審議会の中でどう扱うか、スポーツとして扱うのかによって、スポーツ実施率もまた変わってくる。eスポーツについては意見をそろえた方がいいと思う。
- ・eスポーツは、スポーツという言葉そのものがおかしいと思う。入れるべきではない。
- ・佐賀県体育協会としても、eスポーツを日本スポーツ協会が入れるのか入れないのか、回答を求めたが、現在協議中であった。青少年の健全育成になるのかという意見や、eスポーツもスポーツとしてやるという意見もあり、回答は出なかったが、今後日本スポーツ協会の回答を待ちたい。ただ、eスポーツについて非難する形はとってない、健全育成の面からはいろんな考え方がある。

(事務局)

事務局でも議論していた内容であるが、スポーツについては国の方針も出ていない中で、佐賀市としてeスポーツをスポーツとして含めるにはまだ検討が必要だと思っている。

#### ◎佐賀スポーツピラミッド構想 (SSP) について

- ・競技スポーツについて県の動きに合わせるという意味では、県では佐賀スポーツピラミッド構想 (SSP) が大きなスタートを切った。補助金で競技者を育成することよりも、地元に戻ってくる有能な選手を受け入れる体制作り、例えば企業にその選手の給料の一部を県が

肩代わりするとか、そういう自治体がトップアスリートを育成していく、あるいはアカデミーを作る。市も、そういったところに文章を加えるなりして、バックアップ体制、あるいは企業をスポーツの仲間に引き込んでいくような、そういう視点を盛り込んでいく必要があると思う。

- 佐賀市には大きな企業がない。だから企業に選手を押し込むのは非常に無理がある。行政がその一部を担う、行政マンの育成としてアスリートを育てる。そういった事がないと、空回りしそうな気がしてならない。佐賀の企業は、アスリートを自由にとっていない訳ではない。きちんとした入社試験をして、優秀な人でさらに競技をやっていく。そういう事なので、押し込むという意味では長続きしない。やはり、行政がその役割を担う、そういう位置づけが必要。
- 佐賀スポーツピラミッド構想の底辺はアスリートを作るための底辺ではないと思っている。アスリートになりたい、なれる子はいいと思うが、ここは住民スポーツをいかにするかということだ。

(事務局)

県の佐賀スポーツピラミッド構想については役割分担として、県はアスリートを育成することだろうが、佐賀市、市町にとっては裾野を広げる、市民がスポーツに親しむという部分を担うと考えている。先ほど話に出た、補助金を活用しアスリートを育てるところとは、佐賀市の役割としては異なるのではないかと今のところは考えている。

#### ◎国民スポーツ大会について

- 青森県が出した、国民スポーツ大会に向けた基本構想の概要版がある。佐賀県の人に国スポが来るが、「オール青森」で、最初に「県民のレガシーとする」「県民の誰もがスポーツに親しむ国スポにする」ということで、健康づくりや生きがいづくりのために国体をする」という事を明記している。しかし佐賀県はそういうのではなく、どうも、勝たなければいけないという意識の中で、その思いが強すぎる。だからこの佐賀市が出す計画では、住民スポーツの中で国スポを開いていく、みんなで盛り上げていこうという形で作った方がいい。県ももう一度それを見直していけば、もっと住民は国スポに対して興味を持てると思う。

#### ◎学校部活動について

- 現場としては部活動をどうするか、もっと真剣に議論すべき。底辺を広げて2023年で少しでも成績をあげようと思うなら、働き方改革もいわれている中で、中学校の部活動を積極的に地域で行うべき。基本は先生たちが教育の一部として部活動を指導するのが理想だが、例えば総合型の指導者、スポーツ少年団の指導者を、学校に指導者として派遣する。そういうことを、もっと力強く進めた方が現場力につながると思う。佐賀市の中学校の校長先生のリーダーシップを仰ぎながら、地域の人材バンク的なものを作る。スポーツ少年団はそういう素地があり、今年度も指導者は研修を受講し資格を取得している。現場が手を挙げていても、学校側が受け入れないとならない。学校のことは、教育委員会かも知れないが、地域振興部としても部活動をどうするか、もっと真剣に子ども達の目線で考えなくてはいけない時期ではないかと思う。子ども達が主役、先生ではない。そういう面でもバックアップをしてほしい
- 学校現場は外部指導者を受け入れることに抵抗があるように感じることもある。

- ・多くの教員は、部活の指導をしたいと思っているらしいが、忙しいということから、先生方を地域がサポートする形でやっていくといいと思う。

(事務局)

所管は教育委員会になるが、学校に専門の教員がないところもあり、地域にできる方がいれば、指導を受け入れる場合もある。ボランティアなのかどうか、学校側と相談されている様子。お互いの意見等が合致すれば制度に即して実施している状況。

#### ◎スポーツを通じた地域コミュニティの活性化について

- ・地域コミュニティの活性化にスポーツを活かしていくという視点で、地域コミュニティの希薄化を改善するために、市としては「イベント」を軸に地域コミュニティの活性化を進めていきたいと考えているのか。

(事務局)

ここで言う「イベント」とは広い意味で書いていて、地域の行事もあるし、各地域のスポーツ推進委員が講習会を開催したり、障害者スポーツを地域に周知するために種目を紹介したり、そのようなものも含めた意味での「イベント」なので、表現は変更する。

#### ◎スポーツ推進の方向性について

- ・体協がやっていること、スポーツ推進委員がやっていることを一つにしていく、整理していく事は、コミュニティづくりになるのではないかと思う。

学校の部活動も早くから外部指導者を取り入れたいという現場の声はあったが、学校に外部の人を入れるというのは難しいところがあった。しかし、文科省から実施の通知があり、慌ててやっている。部活動は教育の一環であることは揺らがないが、外部指導者に子ども達への指導力があるかどうかで悩んでいる。種目には長けているけど、(中学生への)指導の知識があるかというところが、学校としては無責任になってはいけない。少年団のように資格を持っている人がいるというのが一番いいのだけど、指導者への講習会を、教育委員会とスポーツ振興課が共同で実施することが必要ではないか。スポーツに関わっている人はたくさんいるのだけど、みんながバラバラにやっているかなという感覚があり、そこを整理するのも今回の作業、重要なことだと思った。

(事務局)

いろんな考えがあって、団体同士が連携協力しなければならず、お互いを尊重しながら、それぞれの役割や良さを出していく。「連携・協働」と記載しているが、実際これは「課題」でもある。スポーツ振興課は教育委員会から市長部局に持って来た。それによって、まちづくり協議会や自治会協議会、公民館などとの連携は図りやすくなったが、教育委員会や学校との連携が少し離れてしまっている。そこは注意しながらやっていかなくてはならないと思っている。部活を教える人材は不足しているが、人材を見極めることも非常に重要だと考えている。技術力と人間性をきちんと見極めて、そこから派遣し担ってもらい仕組みづくりが必要。そこは教育委員会とスポーツ振興課で連携を図っていかなくてはならない課題でもある。審議会は意見を交わしながら、整理というか役割分担をして協議できる場にしていきたいと思っている。

## ■ 生涯スポーツの推進について

### 【主な意見】

#### ◎地域での取り組みについて

- ・国が出しているファンウォークと言うのがあるが、この前熊の川温泉の方と話をしたのは、温泉に入る前に駐車場に早く来て、着かえて走ってきて、オープンに合わせて温泉に入ってから帰る方がいる。地域で、いくつかのコースを作って、走ったらスタンプを押してポイント制にする。そうすることで、客も増えるし、運動もできる。こういう企画を具体的施策に合わせて地域で考える。そういう事を見据えながら、具体的取組を考えていく。
- ・朝と夕方歩く方がいる、見守り隊という形でされている方もいるが、子ども達の登下校時に合わせて、大人、高齢者の方がウォーキングを、やれる人だけでいいので、してもらおうと地域コミュニティにもつながる。そういったものを地域で考える。そこでできることからやっていく動きが出てきたら、つながって行くのではないかと思う。

#### ◎若い世代（30～40代）へのアプローチについて

- ・ビジネスパーソンという言葉の中で30代40代のスポーツ実施率が低いのなら、佐賀はウォーキングが多いので、会社の中でも話をしてもらおうとか、楽しんで健康づくりをしようとか、佐賀市の健康づくりに役立てるようなことをやっていけばいいと思っている。
- ・30代40代のスポーツ実施率が低い、女性の方がより低いのは、やはり子育てや家事を女性の方が担っているからではないか。自分の知り合いの夫婦も、お互いスポーツをやっているが、夫は好きな時にスポーツを行うが、妻はスポーツに出かけようとすると嫌な顔をされるらしく、男女共同の部署にも働きかけていかないと解決しない気がする。

#### ◎スポーツ情報の充実について

- ・情報収集の手段は一般の方は市報、テレビとなっており、障害者の方はテレビ、雑誌、新聞という事である。どちらも「テレビ」が多いが、具体的にテレビで情報を流していく事をしているのか。
- ・サガテレビの情報番組とかに情報を流して、番組で取り上げてもらうとかはしないのか。

(事務局)

市として持っているテレビの広報枠を使用してイベントの告知等を行っている。

今年度は、ニュースポーツの紹介という事で、別途サガテレビから話があり、取り上げてもらった。スタジオでニュースポーツを紹介したことで問い合わせもあった。テレビの媒体を使うと有効的であった。

## ■ 競技スポーツの推進について

### 【主な意見】

#### ◎スポーツの好循環について

- ・競技スポーツに関連する好循環の事例が挙げられているが、人と金の中の「金」がもっと前面に出てきてもいい時代ではないかと思う。国の総合戦略会議を見ても、スポーツの産業化がメインで、経産省あたりが、スポーツで儲ける仕組みを利用した街づくり、そういう講演会を行っている。市も「儲ける」という表現を使っているのではないか。例えば他団体と協力して儲けたお金を、スポーツ施設建設に役立てるとか、さらなる集客アップに使うとか、そういうお金に関する事にもふれてもいい時代になりつつあるのではないかと

思う。そういう意味で、競技スポーツだけでなく、施設と連動させて、いろんな利益を増していく。そうでないと大きな建物は建たない。人が増える、あるいは収益が上がる、特に桜マラソンを筆頭に、金を落とせる種を佐賀市はいくつか持っているので、利用者がお金を落としていく、そのお金が次のスポーツ施設の建設や、高齢者対策や空調に回るような好循環の創出も必要。スポーツをビジネスとして取り入れていこうという機運が高まっているので、そのあたりも入れるような検討をしてもいいのではと思っている。まだ早いかもしれないが。

- ・ 5月に地域スポーツの全国大会が東京である。これは、総合型地域スポーツクラブがいかにかに金儲けをするかというテーマで行われ、何千万というお金を稼いでいる東京のクラブもある。

#### ◎指導者育成について

- ・ 佐賀市で指導している方は、公認スポーツ指導者資格の取得までは言わないが、佐賀市が主催する講習会には必ず1回は参加すべき。講師から講義と自分たちのグループワークで、少しでもお互いで話し合うと、そこに自分の考えを言わなくてはいけない、その時に反省することもあるのではないかと思う。強制とは言わないが、そういう方を増やしていく形を取ってもらえたら助かる。

#### ■ スポーツ施設の整備と活用

##### 【主な意見】

#### ◎フットサルの施設について

- ・ フットサルの問題が県内施設、いろんなところであっている。使用できない市町と、施設を少し改善してやってもらおうという市町とがある。嬉野に作る体育館はフットサルも可能な床にするそうで、佐賀市でも、改修の際はその辺も改善しながらしてもらいたい。一輪車も、体育館ではダメだということと、良いところがある。そういうところを改修の際に対応してもらえたらと思う。

#### ◎しゃくなげ湖ボートカヌー場について

- ・ 2020年東京オリンピックの合宿には当てはまらないのか。2023年の国民スポーツ大会には使用できるのか。

(事務局)

2023年の国民スポーツ大会に向けて整備をしているので、それには間に合う。2020年の東京オリンピックに向けては、今の湖面を利用したキャンプであれば誘致をしている。2020年には整備はまだできていないが、湖面の使用はできる。

10 その他 次回会議日程について事務局から報告

11 問い合わせ先

佐賀市 地域振興部 スポーツ振興課

担当者 馬郡

電話番号 0952-40-7360